

機関番号：34416

研究種目：若手研究（B）

研究期間：平成 20 年度～平成 22 年度

課題番号：20730361

研究課題名（和文）中高年期女性の美容整形と主体構築に関する実証研究

研究課題名（英文）The research for constructing the subject through Plastic Surgery in Middle-aged and Elderly Women.

研究代表者

谷本奈穂（TANIMOTO NAHO）

関西大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：90351494

研究成果の概要（和文）：

中高年女性が、美容活動を通じて、どのような主体を形成していくのかを明らかにするため、文献調査、および国内外の聞き取り調査を行った。その結果、日本のメディア上において女性たちが、美容に関する科学的な言説を好むことが分かった。同時に、若い年代の人々（男性）や美容に携わる人々は、中高年女性が美容実践を行うことに批判的ではないことも分かった。また、アメリカでは、美容整形は盛んで思われるものの、秘密にしておきたい女性達も多いことが分かった。

研究成果の概要（英文）：

In order to make it clear what subject the middle-aged and elder women build with the cosmetic activities, I conducted literature research and interviews in the domestic and overseas. As a result, I found in some media in Japan women prefer to scientific discourse on cosmetics. And, I found men in young generation and persons who are engaged in cosmetic are not likely to object to the cosmetic activities, too. In U.S.A., cosmetic surgery is very popular, but the women who were operated tend to keep their experiences secret.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	900,000	270,000	1,170,000
21 年度	900,000	270,000	1,170,000
22 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：身体、美容、中高年、女性

1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで、文化事象と社会意識

の関連について研究を進めており、特に近年は美容整形のような「身体加工」

と「人々の主体のあり方」の関連について考察を深めてきた。2003～2007年にわたりアンケート調査とインタビュー調査を行い、同時に多くの日本と海外の文献を購読して、考察を進めてきた。それらの成果は、2008年に谷本奈穂『美容整形の社会学』（新曜社）として出版した。この本の中で、人々が整形という身体加工を通じてどのような主体を立ち上げ、どのようなアイデンティティを生成しているかを明らかにしている。

だが、その研究調査のなかで一つの気付きがあった。それは、これまで美容整形やその他の身体加工が「主として若者の行うこと」と認知されがちであったことだ。アンケートでも美容整形は若い人が多いと認識されていた。しかし実際は、中高年の人々は、熱心に身体加工を目ざした活動を行っている。特に申請者の調査では、美容整形手術を行う中高年の女性は飛躍的に増加しており、中高年の女性の主体として考えられてきた像と、現在の主体像には乖離があることが予測された。

高齢社会においては、身体加工というパースペクティブを通して、中高年の女性の主体形成のあり方を考察することは必要なことだと思われる。というのも、若者の行う美容整形と共通する点を持ちながら、中高年の女性たちが行うそれは、よりエイジングの問題と密接に絡まりあっているからである。人々が加齢についてどう考え、社会が加齢に対してどうふるまうのかを、中高年女性の美容整形を通して認識できると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中高年女性が、美容整形手術などの美容活動を通じて、どの

ような主体を形成していくのかを明らかにすることである。現代社会において、身体は加工可能なものとして提示され、しかも加工に対する許容度は大きくなっている。「プチ整形」の流行、エステティックの普及、コスメフリークの登場、タトゥーや茶髪の普及などは、いまや社会における一大現象と化しているほどだ。どのような身体が美しいとされ、どの程度までの身体加工ならばさして抵抗なく人々に受け入れられるのか、そうした自然な身体／人工的な身体の境界をめぐるイメージは、近年まさに大きく変わってきている。このような社会において、人がどのような身体をつくりあげることが、その人がどういう主体であるかを決定する重要なモメントとなっている。そこで美容整形手術（プチ整形を含む）という事象を扱うこととした。

また、こういった身体加工の議論からは中高年女性は見過ごされがちであった。プチ整形や茶髪などは若者のすることとして認識されてきたからである。しかしながら近年、中高年女性の間で美容整形はかなり普及し、社会的に見過ごせない事態になっている。高齢社会になった今、こういった身体加工を通じて人はどのような主体を形成するかについて、若者だけではなく、中高年期女性について調査・考察しておく必要がある。

なお、日本における研究だけではなく、国際比較研究も行う。比較対照する国は、整形大国と呼ばれるアメリカである。

3. 研究の方法

全体として次の方法を採用している。整

形に関する文献・資料の収集、日本国内での聞き取り調査、および海外における聞き取り調査である。それらを通じて主体モデルの仮説を提出しようと試みた。

まず、文献・資料の収集について説明する。海外および国内の整形に関わる文献（社会学に限定せず、哲学、心理学など他領域も含めて）収集した。また、学術書だけではなく、雑誌やパンフレットなど、人々の整形の動機付けに影響を与えてきたマスメディアも収集した。

次に、日本国内での聞き取り調査、海外における聞き取り調査について説明する。インタビュー調査は、インフォーマントの感情的な問題と直面する可能性があったため、次の3点を対応策として考えた。あらかじめ研究主旨を明らかにする文章を用意するとともに、問題が生じた際にはその経緯を探り、調査計画にフィードバックすること、同時に、インフォーマントのケアにあたること、また研究発表を行う場合必ずインフォーマントの許可をとること。以上の3点である。

4. 研究成果

平成20年度は、文献を収集すると同時に、日本国内での聞き取り調査を行った。聞き取り対象者は、美容に関する仕事をしている人、および美容に関心の高い男性で、いずれも中高年女性が美容に関心を持つ最近の傾向についての意識をたずねている。そこでは、人々（美容の仕事をする人や男性）に、中高年女性の美容について肯定的な意見が見られた。それらの成果については、研究所紀要に論文「一人遊びの時代」として掲載され、一般書籍『「男らしさ」の快楽』（勁草書房）に論文「部族化するおしゃれな男たち」として掲載されるなどした。また、研究会で随時発表を行って

る。

平成21年度は、整形に関する文献・資料のうち、学術書だけではなく、雑誌を中心としたマス・メディアの分析を進めた。雑誌についていえば、近年30, 40, 50代女性向けのファッション雑誌や美容雑誌が刊行されているので、その雑誌を中心に収集し、その収集した雑誌の内容をテキストデータとして入力する作業を行った。その上で、データの一部を用いて分析も行っている。分析結果の一部は、平成21年度日本社会学会大会で学会報告において発表している。また、同じく結果の一部について、現在、原稿を執筆中である（平成23年度に出版予定）。なお、引き続き、研究会で随時の発表は行っている。

平成22年度については、これまでの知見を用いて論文「美容における科学言説」を執筆し、『情報研究』に掲載された。また、アメリカ（UCLA）にて、聞き取り調査を行った。現在、聞き取った内容をデータ化しているところである。そして、以上の研究を元にした発表を、台湾の台湾首府大学にて学会発表を行った。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）
谷本奈穂「一人遊びの時代」『Mobile Society Review 未来心理』13号、2008年、44-49、査読・有

谷本奈穂「美容における科学言説」『情報研究』34号、2011年、39-52、査読・無

〔学会発表〕（計2件）

谷本奈穂「現代における公衆の科学理解

(2) ——美容に関する言説を事例に」日本
社会学会、2009年10月11日、於立教大学

谷本奈穂「Cosmetic Surgery in Japan」台
湾首府大学應用外国語教師專業成長學術研
討会、2010年12月4日、於台湾首府大学

〔図書〕(計3件)

谷本奈穂(編者及び執筆者)『博覧の世紀』
(福間良明・難波功士と共編)2009年、梓
出版社、310頁

谷本奈穂(編者及び執筆者)『メディア文化
を社会学する』(高井昌吏と共編)2009年、
世界思想社、304頁

谷本奈穂(分担執筆)『「男らしさ」の快
楽』(宮台真司他編)、2009年、勁草書房、
49～78頁

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷本奈穂 (TANIMOTO NAHO)

関西大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：90351494

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：